

門松つくりを指導 村山光雄さん (小笹)

「門松」。もともとは、新年を迎える際に、年神様が降りてくるときの目印として木を立てたのが始まりと言われ、現在のように、玄関前などに左右に一対立てるようになったのは江戸時代からと言われています。

その門松づくりの指導を村山光雄さんが毎年行っています。 村山さんの手ほどきを受けたのは、明光保育園の園児と、御岳 小学校の6年生の児童です。

12月17日は、御岳小学校の6年生16人が体験。すべての作業を自分たちで行い、1時間後、児童の背丈ほどある立派な一対の門松が校門に飾られました。

12月25日は明光保育園での指導。最年長児16人がミニサイズの卓上門松制作の手ほどきを受けました。卒園の思い出にと企画され、今年で3回目です。毎年園児や保護者に好評だそうです。

村山さんは「日本古来の正月の行事を子どもたちに知ってもらいたい」と伝統行事の継承を目的にこれからも指導を続けます。







明光保育園では卓上門松を制作。





